

光高図書だよりPart I



2017年7月14日発行 光高図書委員会

蒸し暑い日々が続いていますが、梅雨明けはいつ頃になるのでしょうか。さて、待ちに待った夏休みが目前に近づいています。でも、イソップ童話の『アリとキリギリス』を思い出してください。最後に苦い思いをするキリギリスさんにならないよう、文武両道を心がけて、夏を楽しみましょう。 **3年6組 図書委員 (A、K)**

新着図書案内

読みごたえのある本で、読書三昧の夏にしよう!!

フィクション

『中島 敦全集1~3』 中島 敦/著 ※2年生女子のリクエストにより購入しました。

『ゼロの焦点』 松本清張/著

ある時鶴原禎子の見合い結婚したばかりの夫・憲一が、仕事の引き継ぎの為前任地の金沢に出かけたまま行方不明になってしまう。夫の行方を捜すため禎子は金沢へと足を運ぶ。次々と浮かび上がってくる夫の真相。そのすべてを知り、禎子は憲一のもとへ向かうが……。

『幼年期の終わり』 クラーク/著 池田真紀子/訳

『一九八四年 新訳版』 ジョージ・オーウェル/著 高橋和久/訳

『ねじ式』(漫画) つげ義春/著

※以上は、2年生男子のリクエストで購入しました。

『本を読むひと』 アリス・フェルネ/著

ジプシーの大家族と、ある図書館員の物語。20年におよぶフランスのロングセラー。(本の帯より)

『わたしたちが自由になるまえ』 フーリア・アルバレス/著

1960年代のはじめ、独裁政権末期のドミニカ共和国。自由をもとめる闘いを見つめた、12歳の少女の物語。(本の帯より)

『美女と野獣 オリジナル版』 ガブリエル=シュザンヌ・ド・ヴィルヌーヴ/著

ディズニー映画で知られる「美女と野獣」は、ヴィルヌーヴ夫人のこの作品を子供用に要約して書き直したものだ。本書がオリジナル版ですが、そのストーリーは長い間埋もれていたそうです。

※高校が舞台の小説。いずれも文庫本

『スイーツレシピで謎解きを 推理が言えない少女と保健室の眠り姫』 友井 羊/著

『エースナンバー 雲が湧き、光あふれて』 須賀しのぶ/著

『僕は君を殺せない』 長谷川 夕/著

「ラテンアメリカの国々では、『証(あかし)』とよばれる習慣があります。自由を求めて闘い、生きのびた人間には、証言をする責任があるのです(作者)。作者は本書で、自身の体験を物語という形で「証」にしたのです。

※ベストセラーとなった本、人気作家たちの短篇。いずれも文庫本

『本日は、お日柄もよく』 原田マハ/著

『火花』 又吉直樹/著 →単行本を借りている人、至急返却を!

『短篇ベストコレクション 現代の小説2017』 日本文藝家協会/編

『短編復活』 集英社文庫編集部/編

※名作は文庫本で!

『吾輩は猫である 上、下』 夏目漱石/著

『読んでおきたいベスト集!』 宮沢賢治/ 別冊宝島編集部/編



ノンフィクション

『ナビラとマララ 「対テロ戦争」に巻き込まれた二人の少女』 宮田 律/著

17歳でノーベル平和賞を受賞したマララさんと同じパキスタンの部族地域出身のナビラさん。対テロ戦争の犠牲者という立場も同じ。けれど、ナビラさんのその後は、マララさんとは全然ちがった。(朝日新聞書評欄より抜粋)

『明治維新の正体 徳川慶喜の魁、西郷隆盛のテロ』 鈴木荘一/著

「要するに戦争に勝った薩長新政府が自分たちに都合のよい幕末維新史を書いて学校で教え、私たちはそれに洗脳されているだけではないのか? もしそうなら歴史は単に戦勝者の創り話に過ぎないということになる……」(序文より)

『アメリカの大学生が学んでいる「伝え方」の教科書』

スティーフン・E・ルーカス/著

本書は、1983年に初版が刊行されて以来、「プレゼンと言えはこの本」と言われ、2016年現在、ハーバード大学やニューヨーク大学など、アメリカの1300以上の大学が本書を教科書として採用しています。(監訳者まえがきより)

『ダウン・ザ・ハイウェイ—ボブ・ディランの生涯』

ハワード・スーンズ/著

初版は2002年12月に発行されています。本書は、ノーベル文学賞受賞を記念して刊行された新装版です。謎だらけのボブについて、知りたい人は読んでみてください。

『学校では教えてくれない! 国語辞典の遊び方』 サンキュータツオ/著

『ソウの時間 ネスミの時間』 本川達雄/著 ※この本は、先日の光潮講話で紹介されていた中の1冊です。

【岩波ジュニア新書】

『中学生になったら』 宮下 聡/著

『質問する、問い返す 主体的に学ぶということ』 名古屋隆彦/著

『読みたい心に火をつけろ 学校図書館大活用術』 木下通子/著

本書は、「9・11以後に生まれた子どもたちのための本なんです。中東の複雑な情勢を理解するのは正直、大人でも難しい。だけど本書はねばり強く説明する。『対テロ戦争』にいたるまでの欧米とイスラム諸国の長い歴史。同時多発テロ、イラク戦争……」(朝日新聞書評より)

~夏休みの図書室利用~

◇開館日時: 7/21(金)~8/25(金) いずれも8:30~16:30

◇閉館日: 土曜日、日曜日、祝日、8/14、15、16(お盆休み)、8/22(学校説明会)

◇図書の貸出: 1人5冊まで *返却期限は8/28(月)

【利用上の注意点】

- ・飲食は厳禁! 静粛に過ごし、図書やその他の設備は丁寧に扱きましょう。
- ・エアコンの操作はスイッチON、OFFのみ行ってよい。設定温度は変えてはいけません。
- ・図書の貸出・返却は各自で行ってよい。
(カウンター上のパソコンでの処理、または貸出簿に記入。)
- ・不明な点等は、司書教諭(井宮先生)に尋ねる。または職員室で尋ねる。

先生方が希望された本 購入完了しました

※各教科希望書籍が全て揃いましたので、紹介します。これらの本は当分の間、図書室の
新着本コーナーに置きます。今後、授業等に活用して下さるよう、よろしくお願いします。

国語科

『日本文学図録事典』全1巻(日本図書センター)

地歴・公民科

『世界の難民の子どもたち』全5巻(難民を助ける会/監修 ゆまに書房)

『18歳選挙権に向けて 主権者教育のすすめ』(藤井 剛/編著 清水書院)

『統計検定公式問題集』2級、3級・4級(実務教育出版)

『いかにして問題をとくか 実践活用編』(芳沢光雄/著 丸善出版)

『最新版 佐々木隆宏の数学の発想力が面白いほど身につく本』(佐々木隆宏/著 KADOKAWA)



理科

『元素生活[完全版]』(寄藤文平/著 化学同人) 『元素検定』(櫻井 弘/著 化学同人)

『宇宙に「終わり」はあるのか』(吉田伸夫/著 講談社ブルーバックス)

『深海底の地球科学』(藤岡換太郎/著 朝倉書店) 『宇宙のつくり方』(ベン・ギリランド/著 丸善出版)

『もうダメされないための「科学」講義』(菊池 誠 他/著 光文社新書)

『すごい動物学』(文庫 新宅広二/著 永岡書店) 『テレビの嘘を見破る』(今野 勉/著 新潮新書)

英語科

『中学英語で日本を紹介する本 14歳の世渡り術』(デイビッド・セイン/著 河出書房新社)

『近代日本学校制服図録』(難波知子/著 創元社)

『11歳からの正しく怖がるインターネット 大人もネットで失敗しなくなる本』(小木曾 健/著 晶文社)

家庭科

『わたしらしく、LGBTQ1 多様な性のありかたを知ろう』(ロバート・ロディ、ローラ・ロス/著 大月書店)

『子ども食堂をつくらう! 人がつながる地域の居場所づくり』

(豊島子どもWAKUWAKUネットワーク/著 明石書店)

『2025年、高齢者が難民になる日 ケア・コンパクトシティという選択』

(小黒一正/著 日経プレミアシリーズ)

『高齢者の栄養ケア Q&A55』(田村佳奈美/編著 メディカ出版)

『生活力がつけば一生の宝』(全3巻 婦人之友社)

『47都道府県ビジュアル文化百科“伝統食”』(丸善出版)

『DVD かんたんテーブルコーディネート』(コード番号 3246410 教育図書)

『好きになる栄養学 第2版』(麻見直美 他/著 講談社)

音楽科

『オペラ座の怪人 通常版』(DVD) 『レ・ミゼラブル』(DVD)

『J・シュトラウス 喜歌劇《こうもり》全曲』(DVD)



情報

『情報倫理～ネット時代のソーシャルリテラシー～』(高橋慈子 他/著 技術評論社)

『平成29年度春期秋期 基本情報技術者 合格教本』(角谷一成 他/著 技術評論社)

保健室

『気になるあの病気から自分を守る! 感染症キャラクター図鑑』(岡田晴恵/監修 日本図書センター)

『その島のひとたちは、ひとの話をきかない』(森川すいめい/著 青土社)

『レジリエンス入門:折れない心のつくり方』(内田和俊/著 ちくまプリマ-新書)

読書感想文 心得

夏休みは読書感想文に挑戦しよう!!

この夏、1、2年生は読書感想文か読書ノート(の宿題)があります。特に、2000字の感想文を書くのは大変ですが、良書に出合ったらその感想を誰かに伝えたい、溢れる思いを言葉で表現したくなるもの。だから、**まず大事なことは、自分にとっての良書に出会うこと**です。

図書日より前号と今号には新着任の先生方がたくさんの良書を紹介されています。今号の新着本紹介では、この夏にじっくり読んでほしい読みごたえのある本を多く紹介しています。カラフルに夏の装いをした書店にも行ってみてください。書店員おススメの本がズラリと並んで置かれて、思わず手にとって読んでみたくなるものばかり。良書に出合えるチャンスはこのように、いっぱいあるのです。

そんな中で、**次の3冊は感想文を書くのに最適の本**と言えます。なぜなら、これらは**第63回青少年読書感想文全国コンクールの課題図書、感想文を書くための課題図書**だからです。

課題図書は、「高校生にとって、読書する喜びを感じられる本」「読書を通じて新しい考えを持ち、世界が広がる本」であることを条件に厳選されています。

『フラダン』 古内一絵/著

部活動を通して友情を育み成長していく様子が描かれ、皆さんにとって身近なテーマが扱われています。東日本大震災の復興に対する思いも被災状況や生活環境から様でないこと、被災者のさまざまな思いが伝わる作品です。



『ストロベリーライフ』 荻原 浩/著

30代半ばの主人公は高校生とは接点がないように思えるけれど、読み進めるうちに仕事とは? 家族とは? 夢とは? と、次々に質問をぶつけたいくなるかもしれません。将来を考える上で大事なことが詰まっている、農業のあり方についても考えてみたくなる作品です。

『犬が来る病院 命に向き合う子どもたちが教えてくれたこと』 大塚敦子/著

日本で初めてセラピー犬を受け入れた病院の小児病棟がこの本の舞台。重い病に立ち向かう子どもとその家族を、医療スタッフが懸命に支えています。自分が生きていることへの感謝の思いが深まります。

次に、読むときに試みてほしいことを提案します。それは、**本を読みながら感じたこと、考えたこと、疑問に思ったこと、ひらめいたこと等々をその都度付箋にメモし、それを該当のページに貼り付けていく**ことです。どんな些細なこともメモするのです。読むときの、この一瞬間が感想文を書く際に役立ってきます。

青少年読書感想文全国コンクール3年連続受賞者に聞く

——良い読書感想文を書くテクニックやコツは?

妥協しないという姿勢は大事だと思います。**いかに一つひとつの表現にこだわって書くか**、ですね。自分の文章に納得できない時は、**思いついては書き直し、読み返して、また違うと感じて書き直します。**

文章を書くことは、自分の頭の中にあるものをアウトプットする作業。「自分が書いたもの」は、「自分が考えた過程」です。頭の中にあるものを外に出すのは大切で、そういう経験を多く積むことは「自分がどれだけ考えられる人間になるのか」につながります。



良書と出会い、良書を丁寧に読んで、自分の文章に納得がいくまでこだわって、読書感想文を書いてみてください。こうして書いていくことは読解力や思考力を育むことであり、実は受験にも十分役立つ行為ですから、どうか一生懸命取り組んでください。

以上、司書教諭より
(参考: 青少年読書感想文全国コンクール事務局資料)

読書感想文は原稿用紙(各自で用意)に縦書き・白筆で、1900字以上2000字以内で書く。自分の感想文に付ける題と学年・氏名は、原稿用紙1枚目の右側欄外に書く。提出は8/21(月)登校日。